

事務局:〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル)2階
電話/FAX:03-5251-2133 e-mail:jet-office@japet.or.jp
日本教育工学会ホームページ <http://www.japet.or.jp/jet/>

ISSN 1340-9913

第21回通常総会とシンポジウム開催のお知らせ

第21回通常総会とシンポジウムを以下のように開催いたします。あらかじめご予定ください。

記

1. 日時 2005年6月18日(土)
 - 10:00~12:00 シンポジウム1(詳細はp.2をご覧ください)
 - 12:00~13:00 総会
総会終了後 理事・評議員会
 - 14:00~16:00 シンポジウム2(詳細はp.2をご覧ください)
2. 会場 東京工業大学 西9号館デジタル多目的ホール
東京都目黒区大岡山2-12-1
(東急目黒線・大井町線 大岡山駅下車 徒歩1分)
3. 総会の議事
 - 1) 第1号議案 2004年度(2004.4.1-2005.3.31)事業報告および収支決算承認の件
 - 2) 第2号議案 2005年度(2005.4.1-2006.3.31)事業計画案および収支予算案承認の件
 - 3) 第3号議案 会長、理事、監事、評議員の選任の件

なお、第21回全国大会は9月23日(金/祝)~25日(日)の3日間、徳島大学で開催します。

本号目次

第21回通常総会とシンポジウム開催のお知らせ-- 1	研究会の開催案内 ----- 11
シンポジウム開催のご案内(第1報)----- 2	2004年論文投稿件数と採択率 ----- 13
ショートレター増刊号の論文募集のお知らせ(最終報) ----- 3	2005年度会費納入のお願い ----- 14
第21回全国大会のお知らせ(第1報)----- 4	第10期第14回理事会議事録 ----- 15
	新入会員/学会日誌等 ----- 16

6月シンポジウムの開催について

日本教育工学会 2005 年度の 6 月シンポジウムを、以下のように、学会総会の前後に行います。午前中は主として学会員を対象とし、「企業内教育における e-Learning の展開・学校教育における活用を展望して・」(仮題)と題したシンポジウムを、また、午後は、公開シンポジウムとして「ワークショップと教育工学」(仮題)と題し、開催致します。

現在詳細を計画中ですが、決定分についてお知らせ致します。

日 時：2005 年 6 月 18 日(土) 10:00-16:00

会 場：東京工業大学 西 9 号館 デジタル多目的ホール

東京都目黒区大岡山 2-12-1 (東急目黒線・大井町線 大岡山駅下車 徒歩 1 分)

参 加：参加希望者は、当日受付にて直接お申し込み下さい。(資料代のみ頂きます。開始 30 分前より受付を行っております。)

午前の部：10:00-12:00 シンポジウム 1 (主として学会員向け。ただし非会員の方の参加も可能)

テーマ 「企業内教育における e-Learning の展開・学校教育における活用を展望して・」(仮題)

ねらい

e-Learning のプラットフォームやコースマネジメントシステムを開発しておられる企業ご自身が、自社の企業内教育でこれらをどう活用しておられるのか、そこではどのような成果があがっているのかを報告して頂き、それについて討論を行うことで、企業内教育だけでなく、今後の初等・中等・高等教育での e-Learning の展開のために有益な知見を共有します。

司会 (以下敬称略)

岡本敏雄 (電気通信大学)

登壇者

徳永直助 (日立電子サービス・教育統括本部次長・教育企画部部長)

仲林 清 (NTT レゾナント・ビジネス PF 事業部・PF 部門・部門長)

その他の方々 (交渉中)

午後の部：14:00-16:00 シンポジウム 2 (会員及び一般参加者向け)

テーマ 「ワークショップと教育工学」(仮題)

ねらい

近年、博物館等の公共施設、学校、企業、地方自治体など、さまざまな場所でさまざまな機会に行われている「ワークショップ」について、その計画、実施、評価などに教育工学がどのように貢献できるのか、そこでの問題と課題は何か、将来、どのように貢献を広げていけるのかなどについて検討します。

司会 (以下敬称略)

美馬のゆり (日本科学未来館)

登壇者

上田信行 (同志社女子大学)

永露陽子 (産業能率大学)

村川雅弘 (鳴門教育大学)

山内祐平 (東京大学)

以上です。なお、詳細は今後変更されることもありますことをご了解下さい。

ショートレター増刊号の論文募集のお知らせ

日本教育工学会論文誌 Vol.29, Suppl.の発行

論文受付締切：平成 17 年 4 月 4 日(月) 編集委員会事務局必着

日本教育工学会論文誌 Vol.29, Suppl.は、年 1 回発行されるショートレターの増刊号です。投稿規定および原稿執筆の手引きを参照の上、奮ってご投稿下さい。

ショートレターの採録条件は、Vol.27より以下のようにになりましたのでご注意下さい。

(詳細は、JET117号参照)

1. ショートレターは、刷り上がり 4 ページ厳守。
(4 ページを超えるものは採録しない)
2. ショートレターでは、筆頭著者(ファースト・オーサー)は本学会会員であることが条件です。あるいは、筆頭著者が投稿時に入会手続きおよび会費等を納入することが必要です。なお、各会員は本ショートレターを年 1 編に限り投稿できます。
3. 平成 17 年 12 月に発刊の予定です。

ショートレターの内容については、例えば、以下のような内容が考えられます。

- ・ 全国大会や研究会で発表した内容をまとめたもの
- ・ 教育実践をベースにした実践と知見をまとめたもの
- ・ 教育システム開発など
- ・ 教育工学研究としての速報的な内容
- ・ 卒業論文や修士論文等としてまとめた内容、など

なお、ショートレターで掲載された内容を、研究的に発展させてまとめて、論文採録の条件を満たすと思われる内容は、学会論文誌に投稿することができます。

ページ数が限られていることから、タイトル、著者、内容については十分厳選の上、ご執筆下さい。

特に、ショートレターの趣旨から、多人数の連名著者はさけてください。研究全体がプロジェクトチームによる共同研究であっても、実際にショートレターの限られた内容に直接携わり、執筆した研究者にしてくださいようお願い致します。

ショートレターの査読日程予定(平成 17 年度):

- 4 月中 担当及び査読者の指名
- 5 月 編集委員会で査読進捗状況の確認
- 7 月 編集委員会で採録 返戻の第 1 回決定
- 9 月 編集委員会で採録 返戻の第 2 回決定
- 10 月 最終原稿の提出
- 11 月 著者校正
- 12 月 増刊号発行予定

投稿論文の送付先:

日本教育工学会 編集委員会 事務局
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-17-1
虎ノ門 5 森ビル 2F

電子投稿でも受け付けています。

<http://www.jset.gr.jp/>

日本教育工学会 第21回全国大会のお知らせ

(第1報)

日本教育工学会第21回全国大会を、下記のように徳島大学において開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。また研究発表につきましても、奮ってご応募ください。なお、早めにご準備いただくために、課題研究テーマ、一般研究テーマ及び発表申し込み手続きの概要をこのニューズレターでお伝えいたしますが、その詳細や原稿の書式等については、次号ニューズレターの第2報等でお知らせいたします。

1. 開催期日・会場

期日：2005年9月23日(金)～25日(日)(3日間)

会場：徳島大学工学部(常三島キャンパス)

〒770-8506 徳島市南常三島町2-1 (JR徳島駅より徒歩15分,徳島空港よりバス30分)

<http://www.tokushima-u.ac.jp/>

2. 大会日程

第1日 9月23日(金)	第2日 9月24日(土)	第3日 9月25日(日)
9:30～10:00 受付	9:00～9:30 受付	9:00～9:30 受付
10:00～12:00 一般研究発表1	9:30～12:30 一般研究発表3	9:30～12:00 一般研究発表4
12:00～13:30 昼食	12:30～14:00 昼食・理事会	12:00～13:00 昼食・
13:30～15:30 シンポジウム1	14:00～14:30 全体会	大会企画委員会
15:40～18:10 一般研究発表2	14:30～17:00 シンポジウム2	13:00～15:30 課題研究発表
	17:00～18:00 移動	
	18:00～20:00 懇親会	

*プログラム編成によっては、時間帯が若干変わることもあります。
また、企業展示は、大会開催期間中終日催されます。ぜひ見学にお立ち寄り下さい。

3. 各セッションについて

(1) シンポジウム

シンポジウム1

シンポジウム1A 教育・学習環境における「ユビキタス」とは？(仮題)

コーディネータ：矢野米雄(徳島大学), 松居辰則(早稲田大学)

携帯電話, PDA, RFID, ウェアラブルコンピュータなどの技術進歩(高機能, 小型化, 低価格化)により, 実環境におけるユビキタス環境構築の可能性が急速に高まってきている。しかしながら, これらの技術の教育環境, 学習環境への効果的な適用に関しては多くの本質的な課題が存在する。そこで, 本シンポジウムでは, ユビキタス情報技術, 学習理論・学習科学, 教育実践からのニーズの各側面からの研究者・実践者による話題提供を中心に「教育・学習環境における「ユビキタス」とは何か?」というテーマについて議論を行いたい。教育・学習環境における「ユビキタス」の本質を認識した上での, ユビキタス技術の教育・学習利用にあたっての必要な基盤技術, そこで展開される学習の理論, そして効果的な実践へと議論を接続したい。なお, このシンポジウムは課題研究(ユビキタス技術の教育利用)と連動して開催する。

シンポジウム 1B 学力向上をめざした授業実践

コーディネータ：中川一史（金沢大学）、吉崎静夫（日本女子大学）

学力低下が叫ばれる中、全国各地には学力向上をめざした優れた授業実践がある。それらの授業実践（3事例を予定）を授業者に映像などで紹介してもらうとともに、関係する研究者にそれらの授業実践の意味を解説してもらう。その後、それらの事例を手がかりに、「学力を向上させる授業とは何か」を参加者（小中高校の教師を特に歓迎）全員で考え、討論する。

シンポジウム 2 学力向上と教育工学（仮題）

コーディネータ：鈴木克明（岩手県立大学）、園屋高志（鹿児島大学）

昨年 11 月に、OECD の PISA の学力調査国際比較、TIMSS の国際比較の結果が相次いで出され、日本の子どもの学力低下問題が再熱した。ICT を活用して「わかる授業」を行うことによって学力が向上する可能性があり、その検討が学会レベルでも行われている。文部科学省における教育の情報化に関する今後の展開についての検討会では、ポスト 2005 年度の情報化推進策、情報教育の在り方が話し合われているが、ここでも学力向上がキーワードとなっている。本シンポジウムでは、学力向上についての教育工学的な提言を目指して、登壇者とフロアーで議論を深めたい。

（2）課題研究

以下のように 7 件のテーマが設定されています。

K-1 デジタルコンテンツ活用実践の評価

コーディネータ：中山実（東京工業大学）、余田義彦（同志社女子大学）

デジタルコンテンツを活用した学習が、様々なアプローチで進められてきた。これらの活用は、実験的な開発や試験的運用に留まらず、実際の教育場面でも成果を挙げている。このため、デジタルコンテンツの研究は、確実な学習効果を上げるための方法論やその評価測定に移っている。

そこで本課題研究では、デジタルコンテンツを活用した実践とその学習効果測定あるいは評価に焦点をあてた成果発表を募集する。効果的なデジタルコンテンツ活用実践、学習効果を得るためのデジタルコンテンツ開発、デジタルコンテンツ活用による教育効果など、デジタルコンテンツの効果を評価するための授業研究モデルや効果測定手法の開発およびその結果報告などについての応募を期待している。

K-2 小中高における情報教育の指導内容と系統性の再構築

コーディネータ：堀田龍也（静岡大学）、小泉力一（都立墨田川高校）

文部科学省は 2004 年 12 月に「初等中等教育における教育の情報化に関する検討会」を組織した。その検討課題のひとつに、今日の情報社会の現実に対応できる情報教育の指導内容の見直しがある。情報社会の進展のスピードは速く、光と影にかかわらず児童生徒を取り巻く事情は激変している。情報社会を生き抜く人材の育成は、情報教育の指導内容を不断に捉え直し、初等中等教育における情報教育の系統性を見据え、かつ柔軟性のあるものに保つことなしには不可能である。

そこで本課題研究では、初等中等教育段階における情報教育の指導内容と系統性の再構築に向けた実践的な研究を募集し議論を深めたい。小中高での情報教育の新しい指導内容や枠組みに関する実践例、各教科および総合的な学習の時間を視野に入れた学校カリキュラムの開発例、中学校「技術・家庭」および高等学校「情報」における先進的な指導内容や指導法の試み、情報教育を基盤とした校種間接続のあり方などを取り上げたい。

K-3 教師の ICT 活用指導力の育成 - その実際，成果と課題 -

コーディネータ：野中陽一（和歌山大学），木原俊行（大阪市立大学）

前回の大会における特別講演及びパネルディスカッション「教員の ICT 活用指導力の目標と研修のあり方～米国の ISTE の事例を参考に～」を踏まえ，教師の ICT 活用指導力の育成と評価，とりわけ教員養成，教員研修の在り方についてさらに理論的・実践的に検討したい。まず都市部を中心とした教員採用の拡大に伴い，教育の情報化を推進する即戦力の供給が望まれていることから，教員養成における，そうした力量の形成に関する方策やシステム，カリキュラムに関する研究の報告を期待したい。また，教育委員会や学校，あるいは各種組織や団体などが取り組む現職教員の研修や，管理職やコーディネータを対象とする研修に関する研究についても積極的に取り上げ，それらの営みの実際，これまでの成果と課題について，議論を深めたい。

K-4 高等教育における e-Learning の展開とその評価

コーディネータ：赤倉貴子（東京理科大学），久保田賢一（関西大学），
米澤宣義（工学院大学）

大学全入時代を目前にし，高等教育機関に求められる機能は変化しつつある。そのような背景の下，「e-Learning」は，新しい教育・学習環境実現をもたらすものとして期待が寄せられているが，その導入効果については十分に議論されているとは言い難い。e-Learning を新しい教育観に基づく教育・学習環境を実現するための手段として位置づけるためには，従来の教育・学習環境における問題や課題を分析し，それらの問題や課題に対して，e-Learning をどのように導入すれば，どのような効果を得ることができるのかを整理しておくことが重要であろう。

そこで，本課題研究では，高等教育の場に e-Learning を実際に導入・実践して得られた効果に関する知見を集めて整理し，今後，高等教育機関では，どのように e-Learning を導入・実践していくべきかについて，教育評価の側面に重点を置いて検討したい。ここでの「e-Learning」とは必ずしも「遠隔」という意味ではなく，情報通信技術を利用した教育・研修形態として広義に捉えていただき，内容的にも広い分野からの発表を期待する。

K-5 ユビキタス技術の教育利用

コーディネータ：山内祐平（東京大学），金西計英（徳島大学）

携帯電話・PDA やウェアラブルコンピュータ，RFID など，いわゆるユビキタスコンピューティングの技術が急速に発展している。このセッションでは新しく登場したこれらの技術の教育利用の可能性について，昨年に引き続き以下の2つのポイントについて議論をしていきたい。

1) 教育利用の基盤技術

ユビキタス技術の教育利用にあたって必要な基盤技術の開発，実証実験などに関する報告

2) 教育実践からのニーズ

ユビキタス技術を利用した教育実践の報告，実践から見てきた可能性や課題に関する知見など

昨年度のセッションにおいて，従来からある PC やインターネットなどを利用した学習との違いをどこに見つけていくかという議論が行われた。本年度の報告には，ユビキタスならではの付加価値に関する主張があることが望ましい。

K-6 教育分野における先端技術の活用

コーディネータ：前迫孝憲（大阪大学），池田満（北陸先端科学技術大学），
林敏浩（香川大学）

本課題では，教育分野に関わりのある様々な先端的な技術に関して知見を交換し，今後の教育工学分野での展開について議論したい。例えば，標準化・オープンソースの普及は，学習コンテンツリポジトリ・e-Learning プラットフォームアーキテクチャに新しい展開をもたらしつつある。さらに，そのような情報処理技術を基礎にして，学習コンテンツデザイン，学習評価，開発体制にも新しい試みが散見できる。また，脳機能に関する研究分野では，教育の革新につながりうる成果がみられる。本課題では，このような先端技術に関する研究成果，新しい展開につながる理論・アイデア，先端技術を利用した教育実践に関する発表を広く公募（一部依頼）する。

K-7 教育を支援する機器・ソフトウェア等の商品の企画・開発の意図とその成果

コーディネータ：大久保昇（内田洋行），小林正幸（日本電気），奥田聡（富士通），
高畑大（東京書籍），吉田哲平（学習研究社）

教員の指導支援や学習者の支援を目的に，ICT を教育に応用したハードウェアやソフトウェア，コンテンツ，運用サポートなどが企業から有償で多数提供されているが，企業と教育現場の間における考え方の違い，誤解から，十分に理解されて活用されているとは限らないのが実情である。本課題研究では，企業の研究者，企画者，開発者，運用担当コーディネータ等からの企画・開発の意図と導入後の成果の発表をもとに，企画・開発に係わる様々な課題について企業，教育現場，研究者の間で議論することによって，今後の製品開発や，現場での運用に役立てたいと考える。

発表では，開発過程において現場のニーズをどのように掴み，どのような効果を狙って開発したか，現場では意図するとおりに使われたか，また，その後の利用者の要望を受けてどのように製品に反映してきたのか，などを特にお願いをしたい。多くの企業の研究・企画・開発・サポートエンジニア関係者からの応募を期待している。なお，どのように進めるべきかという研究も歓迎する。

（3）一般研究

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。セッションは申込みの状況に応じて統合・分割などの調整を行うことがあります。なお，「その他」を選んだ場合は，分野及び想定されるセッション名を記述していただくことになります。

(1)語学教育・国際理解 (2)情報教育 I(情報活用能力の育成等) (3)情報教育 II(教科指導等) (4)メディア教育・メディアリテラシー (5)教師教育 (6)特別支援教育 (7)生涯学習・企業内教育 (8)看護・福祉教育 (9)教育評価・データ解析 (10)授業研究 (11)授業設計・実践 (12)高等教育における教育方法 (13)教育ソフトウェア開発・評価 (14)学習コンテンツ開発・評価 (15)遠隔教育・遠隔学習 (16)認知モデルと知的学習支援システム (17)インターネットを利用した授業実践 (18)教育メディア (19)e-Learning(システム) (20)e-Learning(運用・評価) (21)協調学習と協調作業 (22)その他

(4) English Session

発表及び質疑応答が英語で行われます。本セッションは教育工学研究の国際的流れに対する本学会の寄与であるとともに、国際的な場において研究発表ならびに討論を有意義なものとするための、とくに若い研究者に対する訓練の場でもあります。このような趣旨をご理解いただき、このセッションに奮ってご応募いただきたいと思います。なお、発表は一般研究発表1～3のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます。

*本大会では、自主シンポジウムのセッションは設けません。

発表時間について

発表時間は以下の予定です（発表件数に応じて変わる場合があります）。

[課題研究] 課題研究の趣旨説明 10分 研究発表各 15分 総合討論 1時間程度

[一般研究] 発表 15分 質疑応答 5分

[English Session] 発表 15分 質疑応答 5分

4. 大会までのスケジュール

6月24日（金） 課題研究発表申込書・プロポーザル（2～4ページ）提出締切

7月8日（金） 課題研究採否決定通知

7月29日（金） 課題研究発表原稿（2又は4ページ）提出締切

一般研究発表 / English Session 申込書・原稿（2ページ）提出締切

8月26日（金） 参加費等事前送金期限（それ以降は送金しない）

5. 大会への発表申し込み

(1) 発表者の資格

- ・[発表者]は、本学会の会員に限ります。ただし、会員以外が連名者となることは、差し支えありません。ここでいう[発表者]とは、ファースト・オーサー、あるいは連名者という意味ではなく、大会当日発表される方を意味します。
- ・この会員には、発表申し込み時に入会される方も含みます。ただし、発表原稿受付の段階で[発表者]が年会費を納入されていない場合には発表原稿を受け付けません。なお、第20回大会から、JSET ホームページ大会関係部分にて指定される「発表申し込み」の登録をさせていただくことになりましたので、その登録時に会費納入状況がチェックされます。事前に会費の納入をお願いします。
- ・大会企画委員会が特に発表を依頼した場合は、この限りではありません。

(2) 発表申し込み件数の制限

- ・会員は、[課題研究・一般研究・English Session]に、それぞれ1件（1人合計最大3件）を発表者として申し込むことができます。
- ・連名者の発表件数には、制限はありません。
- ・類似な内容、シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込むことはできません。同一発表者が課題研究と一般研究に申し込む場合も同様です。
- ・[課題研究]は不採択になることがあります。その場合は[一般研究]として申し込むことができますが、既に[一般研究]にも発表を申し込んでいる場合には、それを取り下げる必要があります。

(3) 課題研究の発表申し込み方法

課題研究については次のように2段階の手続きが必要です。

1) 第1段階：発表プロポーザルの提出

- ・発表プロポーザルを、6月24日(金)までに提出してください。
- ・ページ数はA4版2~4ページとします。フォーマットは特に定めておりません。
- ・今年のプロポーザルの提出は、オンライン(Web)受付のみとします。具体的なURLならびに詳しい手続きについては、第2報以降及びJSETホームページの大会関係部分でお伝えします。
- ・課題研究に申し込まれた発表は、大会企画委員会が発表の可否について審査します。発表の可否は、発表内容だけでなく、全体の発表件数も考慮して決められます。
- ・課題研究発表の採否は、7月8日(金)までに申込者に連絡します。

2) 第2段階：最終原稿の提出

課題研究に採択された場合、最終原稿を下記により提出してください。

- ・A4サイズで2又は4ページ。原稿用紙は送付しません。原稿見本(次号に掲載予定)、またはJSETホームページ大会関係部分に示される内容に従って作成してください。
- ・JSETホームページ大会関係部分から、7月29日(金)までに、最終原稿のファイルを送信していただきます。詳しい手続きについては、第2報等でお伝えします。
- ・発表時間の希望には応じられません。

(4) 一般研究及びEnglish Sessionの発表申し込み方法

- ・7月29日(金)までに最終原稿を提出してください。事前の発表申し込みはありません。この提出によって発表申し込みとします。
- ・一般研究とEnglish Sessionの原稿は共に、A4サイズで2ページです。1ページのものは受け付けません。
- ・原稿用紙は送付しません。原稿見本(次号に掲載予定)またはJSETホームページ大会関係部分に示される内容に従って作成してください。
- ・JSETホームページ大会関係部分から、7月29日(金)までに、最終原稿のファイルを送信していただきます。詳しい手続きについては、第2報等でお伝えします。
- ・発表日時の希望には応じられません。

6. 会場の設備について

すべての会場に、プロジェクタ、OHPを準備いたします。各会場に発表用パソコンは用意いたしません、パソコンは各自でご持参下さい。発表会場にはインターネットにアクセスできる環境は用意されていません。機器の利用確認は、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了してください。

7. 企業の展示について

大会期間中、企業による展示も行います。出展を募集いたしますので、ご希望の方は下記へお問い合わせください。

〒770-8506 徳島市南常三島町2-1

徳島大学 工学部 知能情報工学科 矢野研究室気付

日本教育工学会第21回全国大会 実行委員会事務局 宛

E-mail での問い合わせ先：jset2005@is.tokushima-u.ac.jp

8. 大会への参加申し込み

参加申し込みは、次号に同封される郵便振替用紙に、参加者氏名、所属、連絡先、支払内訳をご記入の上、8月26日(金)までに参加費をお振込みください。振込みによって受付とさせていただきます。それ以降は、振込みをなさらないで下さい。大会当日、会場にて、「当日参加」として受け付けます。

<u>大会参加費</u>	事前	3,000円(一般)	2,000円(本学会学生会員)
	当日	4,000円(一般)	3,000円(本学会学生会員)
<u>論文集代</u>	事前	4,500円	
	当日	5,500円	
<u>懇親会費</u>	事前	5,000円	
	当日	6,000円	
<u>論文集送料</u>		800円(参加しない場合)	

9. 宿泊案内について

大会企画委員会では幹旋・紹介は致しませんが、東急観光(株)徳島支店の方による対応を予定しております。詳細は第2報等でお知らせします。なお、この件に関して、お問い合わせは東急観光(株)徳島支店(Tel.088-622-8991 担当:宮崎,上中)まで直接お願いします。

10. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせください。

日本教育工学会 大会企画委員会問い合わせ用アドレス: jet2005@mr.hum.titech.ac.jp

大会企画委員会 委員長: 鈴木克明(岩手県立大学)

副委員長: 園屋高志(鹿児島大学) 木原俊行(大阪市立大学)

委員:

赤倉貴子(東京理科大学) 池田満(北陸先端科学技術大学)

大久保昇(内田洋行) 奥田聡(富士通) 金西計英(徳島大学)

久保田賢一(関西大学) 小泉力一(都立墨田川高等学校) 小林正幸(日本電気)

高畑大(東京書籍) 中川一史(金沢大学) 中山実(東京工業大学)

野中陽一(和歌山大学) 林敏浩(香川大学) 堀田龍也(静岡大学)

前迫孝憲(大阪大学) 松居辰則(早稲田大学) 室田真男(東京工業大学)

矢野米雄(徳島大学) 山内祐平(東京大学) 吉崎静夫(日本女子大学)

吉田哲平(学習研究社) 余田義彦(同志社大学) 米澤宣義(工学院大学)

オブザーバー:

清水康敬(メディア教育開発センター)



研究会の開催

テーマ 学校改善・授業改善と教師教育

日 時：2005年3月19日(土)

会 場：鳴門教育大学学校教育実践センター(徳島県鳴門市)

開催担当：藤村裕一(鳴門教育大学)

研究会は当日受付にて同研究会の報告集(1,000円)をご購入いただければ、一般の方でも参加可能です。

プログラム：

発表時間：発表1件につき25分(発表20分程度、質疑5分程度)の持ち時間です。

開会挨拶・諸連絡 9:00~9:15

午前の部(9:15~11:45)

<会場A>

- (1) コピキタスネットワーク社会に対応した情報倫理教育に関する研究
森 浩三(鳴門教育大学大学院), 藤村裕一(鳴門教育大学)
- (2) へき地・複式学級におけるCSCLを活用した理科教育に関する研究
香西 祥(鳴門教育大学大学院), 藤村裕一(鳴門教育大学)
- (3) 校内情報化推進リーダー支援システムの構築
中川斉史(鳴門教育大学大学院), 村川雅弘(鳴門教育大学)
- (4) カリキュラム・コーディネータ養成のためのe-Learningプログラムの開発研究
木原俊行(大阪市立大学大学院), 堀田龍也(静岡大学), 山内祐平(東京大学大学院), 小柳和喜雄(奈良教育大学)
- (5) 文系大学生を対象とした入学時におけるコンピュータに関する操作能力と用語知識の実態調査
- 4年間にわたる実態調査の比較 -
皆川 武(目白大学)
- (6) 自然範疇の学習のためのITSの開発
相田寛之・塚原 渉・岡本敏雄(電気通信大学大学院)

<会場B>

- (1) 研究授業模擬体験による学部生の総合的な学び
- 総合演習における校内研修PRビデオ制作を通して -
江口慎一・嶋恵里・中原隆彰(鳴門教育大学大学院), 村川雅弘(鳴門教育大学)
- (2) 総合的な学習の実践と連動した校内研修プログラムの開発
- 教師のカリキュラム開発力向上をめざして -
岡本弘子(鳴門教育大学大学院), 村川雅弘(鳴門教育大学)
- (3) 評価活動を重視したNIEの単元開発
- デジタル新聞づくりを通して -
渡邊正博(鳴門教育大学大学院), 村川雅弘(鳴門教育大学)
- (4) 学びの総合化をうながす学校カリキュラムの開発
- クロス・カリキュラー・アプローチの考えを基盤に -
野口 徹(鳴門教育大学大学院), 村川雅弘(鳴門教育大学)
- (5) 視覚情報による自己の対象化支援に関する研究
- 肯定的自己評価意識の育成を目指して -
三浦一之(鳴門教育大学大学院), 藤村裕一・谷村千絵(鳴門教育大学)
- (6) 他者との関わりによる初任教師の実践イメージの変容
深見俊崇(大阪市立大学大学院)

----- お昼休み(11:45~12:45) -----

午後前半の部(12:45~14:25)

<会場A>

- (7) コンセプトマップによる評価機能を組み込んだWB Tシステムの開発
- 「ものづくり」の個別学習教材開発を題材として -
松田稔樹・喬立 潔(東京工業大学大学院), 三田純義(小山工業高等専門学校)
- (8) 「技術者モラル」教育の授業改善を意図したモラルジレンマ教材の検討
遠藤信一(東京工業大学工学部附属工業高等学校), 松田稔樹(東京工業大学大学院社会理工学研究科)
- (9) 学校の情報化を支える専任的外部人材の業務に関する標準化リストの開発の試み
中尾教子(目黒区教育委員会), 堀田龍也(静岡大学情報学部)
- (10) 先端科学研究施設における見学学習を支援するシステムの設計
石塚丈晴(静岡大学工学部) 堀田龍也(静岡大学情報学部), 高橋 純(富山大学教育学部), 村松浩幸(三重大学教育学部), 小汐由介(東京大学宇宙線研究所)

<会場B>

- (7) 体験活動における自立化と教師の支援について
 - 「概念化」シートを活用した自己評価・他者評価を通して -
 - 河野昭一(鳴門教育大学大学院), 村川雅弘(鳴門教育大学)
- (8) 図書館教育と情報教育の連携カリキュラムを実施するための相互支援体制に関する調査
 - 塩谷京子(静岡市立東豊田小学校), 堀田龍也(静岡大学情報学部)
- (9) 自らの生き方を探る「総合的な学習の時間」の支援の在り方
 - 藤本義彦(萩市立明倫小学校), 村川雅弘(鳴門教育大学)
- (10) 積極的情報開示と外部評価による学校改善
 - 豊福晋平(国際大学グローバル・コミュニケーション・センター)

----- 休憩 (14:25 ~ 14:35) -----

午後後半の部 (14:35 ~ 15:50)

<会場A>

- (11) 中等数学教育における単元導入授業のあり方の検討とその設計訓練システムの開発
 - 亀田隆史(東京工業大学理学部), 松田稔樹(東京工業大学大学院社会理工学研究科)
- (12) 教員養成におけるICT活用指導力育成の試みと評価
 - 野中陽一・豊田充崇(和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター)
- (13) 問題解決学習実現のための指導案作成支援システムの開発
 - 藤村裕一(鳴門教育大学)

<会場B>

- (11) 授業支援のための授業プロセスモデルの提案
 - 高橋正行(東京学芸大学, 埼玉県立行田工業高等学校), 森本康彦(富士常葉大学, 長岡技術科学大学),
 - 植野真臣(長岡技術科学大学), 横山節雄・宮寺庸造(東京学芸大学)
- (12) 近代学校の学びを乗り越えるものとしての遠隔連携授業の試み
 - 石村雅雄(鳴門教育大学)

【会場Bの発表に関する討議】

閉会挨拶・諸連絡 15:50 ~ 16:05

会場：鳴門教育大学教育実践総合センター 〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地

・周辺地図：<http://www.naruto-u.ac.jp/>

・キャンパス案内図：<http://www.naruto-u.ac.jp/shyomu/Image/ss-haiti-1.GIF>

・アクセス方法：<http://www.naruto-u.ac.jp/shyomu/ss-akusesu2.htm>

航空機利用の場合：徳島空港口 - 徳島バス「小鳴門橋行」(15分) - 鳴門駅前 - 徳島バス・鳴門市営バス・タクシー(10分) - 鳴門教育大学(一部直通有)

高速バス利用の場合：高速鳴門からタクシーで5分, または徒歩(5分)で徳島バス小鳴門橋 - 徳島バス(5分)「教育大行」 - 教育大北口

JR 利用の場合：鳴門駅前 - 徳島バス・鳴門市営バス・タクシー(10分) - 鳴門教育大学

徳島から路線バス利用の場合：徳島駅 - 徳島バス「教育大行」(50分) - 教育大北口

(徳島バス：http://www.tokubus.co.jp/rosen/ekimae_map/ekimae_map.htm)

(鳴門市営バス：http://www.city.naruto.tokushima.jp/mecha/bus/j_taka.html)

会場連絡先：(藤村裕一) TEL: 088-687-6684

研究報告集年間購読のお勧め



研究会の報告集は、会員・非会員に関係なく年間予約により購読できます。予約価格は年6冊、各研究会平均10件前後の研究発表で、年間合計500ページ前後になります。価格は郵送料込みで3,500円です(当日売りは割高になります)。詳しくは、学会本部事務局までお問い合わせください。

【学会本部事務局】〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル)2階

TEL/FAX: 03-5251-2133 E-mail: office@jset.gr.jp

研究会の今後の予定

今後の研究会開催予定は下記の通りです。

2005年5月21日(土)	多様な遠隔教育の実践と評価	北海道教育大学
---------------	---------------	---------

研究会委員会からのお知らせ

研究会に関するご意見・ご希望, 魅力的な研究会テーマの提案, 研究会での企画などをお気軽に研究会幹事, 委員までご連絡ください。連絡先は次の通りです。

(研究会全般, 研究会Web Page, 研究会発表の申込, 変更等, 原稿執筆)に関するお問い合わせ

研究会幹事 jet-branch@nime.ac.jp

(年間購読, 原稿提出)に関するお問い合わせ

学会本部事務局 office@jset.gr.jp

平成16年 論文投稿件数と採択率

2004年1月～12月の論文採択率は以下の通りです。

・一般論文誌	投稿数 66 編	採録数 9 編	採択率 14%
・特集号	投稿数 32 編	採録数 14 編	採択率 44%
・ショートレターSuppl.号	投稿数 107 編	採録数 67 編	採択率 63%
・ETR (英文誌)	投稿数 14 編	採録数 5 編	採択率 36%

2004年	1月				2月				3月				4月			
	一般	特集	Suppl.	ETR	一般	特集	Suppl.	ETR	一般	特集	Suppl.	ETR	一般	特集	Suppl.	ETR
投稿数	1	2		1		27	3		8		14	4	8		90	2
採録												1				
返戻									1							
取下げ										1						
査読中												1	1			

2004年	5月				6月				7月				8月			
	一般	特集	Suppl.	ETR	一般	特集	Suppl.	ETR	一般	特集	Suppl.	ETR	一般	特集	Suppl.	ETR
投稿数	10			1	5			1	7			3	6	2		
採録	1								3	5	1			5		
返戻	1	11							5	2	21	1				
取下げ		1							1	2						
査読中	3			1	1				3			1	2			

2004年	9月				10月				11月				12月			
	一般	特集	Suppl.	ETR	一般	特集	Suppl.	ETR	一般	特集	Suppl.	ETR	一般	特集	Suppl.	ETR
投稿数	2				7	1			9				3			2
採録	1	3	36	1		1	17		4		13	3				
返戻	6	1	7	1			5		5		2	1				
取下げ				1			4		2		1					
査読中					7				9				3			2

2005 年度会費納入のお願い

年会費は原則として前払いとなっております。同封の郵便振込用紙により 2005 年度(2005 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日)の会費をご送金くださるようお願いいたします。

年会費の年額は右記のとおりです。

会費請求額は、封筒の宛名ラベルの右下に示した金額となります(2004 年度までの納入状況によって右記の額と異なる場合があります)。また、会員種別が変更になった場合は、右記の年会費を参照の上ご送金ください。

会員種別と年会費・受けるサービス

(入会金 1,000 円)

会員種別	年会費	論文誌	増刊号	英文誌	JSET
正会員	9,000 円	1	1	1	1
准会員	5,500 円		1		1
学生会員	5,500 円	1	1	1	1
特殊会員	10,000 円	1		1	1
維持会員	50,000 円/口	3	3	3	3
名誉会員	無 料	1	1	1	1

(注) 論文誌：和文/年 4 回発行

増刊号：ショートレター特集/年 1 回発行

英文誌：英文/年 1 回発行

JSET：ニュースレター/年 6 回発行

学生会員について

- 学生会員は正規の入学者で、研究生は該当しません。
- 学生会員の所属機関は、必ず大学名となります。所属機関が大学以外の場合には、正会員または准会員となります。
- 学生会員は、資格条件(大学名、学部名/研究科名、指導教官名、卒業見込/修了見込の年月)を必ず連絡してください。
- 学生会員として資格条件をご連絡いただかないで、年会費 5,500 円を納入された方は、とりあえず准会員に変更させていただいております。

2005 年度研究報告集の予約購読(年額 3,500 円)について

本学会では、研究会を年 5 回または 6 回開催し、研究報告集を発行しております。この研究報告集は事前に代金 3,500 円を送金された会員に配布しています。

研究会当日、会場で受領できます。不参加の場合は研究会終了後、郵送いたします。

ぜひ、事前に 3,500 円をご送金ください。年度の途中でご送金いただいた場合は、次に開催される研究会終了後に、それ以前の報告集をまとめて郵送します。

第 20 回全国大会講演論文集の購入について

昨年 9 月に東京工業大学で開催された第 20 回全国大会の論文集に残部があります。購入をご希望の方は、学会事務局 (office@jset.gr.jp) に在庫を確認の上、以下の金額をご送金ください。郵便振込用紙の通信欄に「第 20 回全国大会講演論文集」とご明記ください。ご入金を確認後お送りいたします。

特にご要望がない場合、請求書・領収証等を発行しておりませんので、必要な方はその旨ご記入ください。

- 第 20 回全国大会講演論文集 1 部 5,000 円
(論文集代 4,500 円 + 送料 500 円)
- 口座番号：00180-0-111042 加入者名：日本教育工学会

日本教育工学会第10期第14回理事会議事録

日時：平成17年1月29日（土）15:00～17:00

場所：社団法人日本教育工学振興会（JAPET）

出席：清水康敬会長、山西潤一副会長、池田 満、大谷 尚、木原俊行、向後千春、坂元 昂、澤本和子、鈴木克明、園屋高志、永岡慶三、中村紘司、中山 実、堀田龍也、前迫孝憲、村川雅弘、横山節雄、吉崎静夫、小林常一事務局次長

1. 第10期第13回理事会議事録を承認した。
2. 会員の移動について 新入会員19名（正会員8名、准会員3名、学生会員8名） 退会会員3名（正会員2名、准会員1名） 種別変更1名（准会員へ1名） 不明会員2名（学生会員2名）を承認した。
3. 各種委員会報告について
 - (1) 編集委員会 中山理事より資料3による報告と以下の報告があった。
特集原稿の締め切り延長とショートレター委員会の設置を検討中。
 - (2) 出版委員会 吉崎理事より叢書出版は予算措置が必要との要請があった。
 - (3) 企画委員会 大谷理事より資料4のとおり報告と次の提案などがあった。
3月の研究会予定の紹介、6月の総会シンポジウムの企画に関するご意見のお願い。
 - (4) 研究会委員会 村川理事より資料5のとおり、今後の予定と実施状況を報告、2月実施に関して影響のある9月研究会と全国大会の日程について、回数を5回に減らすことを検討して欲しいとの要請があった。5回にすれば、全国大会前後の研究会ははずすことが出来るという村川委員長の提案で検討することにした。
 - (5) 大会企画委員会 鈴木理事から以下の報告があった。
本日、第1回委員会を開催。3日間の予定で開催日程を作成した。自主シンポジウムは昨年同様設定しない。発表プロポーザル原稿と発表要項原稿が同じ形式で済むようにする。これはウェブ投稿だけに限定しないこと、などを検討した。事前参加費払い込みが望ましいので、当日参加との差別化を図り、事前申込者は参加費と懇親会費を各千円ずつ割引くこととした。
 - (6) 選挙管理委員会 澤本委員長と向後委員から資料6のとおり推薦者についての説明と選挙日程の提案がされ承認された。
 - (7) 20周年記念事業 清水会長から、予定した企画は概ね予定通り実施することができた。これを10期の反省としてまとめ、次の新会長に渡す予定である。
 - (8) ニュースレター委員会 堀田理事から資料7の135号の構成が提案され承認された。
4. その他
 - ・清水会長から任期満了による次の会長への引継事項を考えたい、との発言があった。
 - ・ショートレターとニュースレター、大会の企画などに関するフリートークを行った。
 - ・協賛依頼の承諾について（報告）

第4回教育改革国際シンポジウム「持続可能な開発」と21世紀の教育 / 3月26日（土）
国立教育政策研究所・文部科学省
 - ・今後の理事会の日程について
 - 第10期第15回理事会：平成17年3月26日（土）15:00～17:00
 - 第10期第16回理事会：平成17年5月14日（土）
 - 第10期第17回/第11期第1回理事会・評議員会（通常総会）：平成17年6月18日（土）

以上

新入会員

(2004年11月28日～2005年1月29日)

■ 正 会 員 8名

相原 貴史
(お茶の水女子大学附属小学校)
植木 克美(北海道教育大学大学院)
片瀬 拓弥
(国際コンピュータビジネス専門学校)
清水 信朗(株式会社ライトワークス)
福村 好美(長岡技術科学大学)
松浦 義昭(金沢大学)

松本 豊司(金沢大学)
山口 晃子(東京家政大学)

■ 准 会 員 3名

塩谷 京子(静岡市立東豊田小学校)
中尾 教子(目黒区教育委員会)
星野 俊彦

■ 学 生 会 員 8名

穴田 恭輔(神戸大学大学院)
石井 麻衣(関西大学大学院)
大嶋 淳俊(東京大学大学院)
小山 義徳(東京大学大学院)
芝原 靖(中京大学)
富長 實(兵庫教育大学大学院)
森 浩三(鳴門教育大学大学院)
谷田貝 雅典(早稲田大学大学院)

学会日誌

- 3月19日(土) 研究会「学校改善・授業改善と教師教育」(鳴門教育大学)
- 3月26日(土) 理事会・編集委員会(JAPET)
- 5月14日(土) 理事会・編集委員会(JAPET)
- 5月21日(土) 研究会「多様な遠隔教育の実践と評価」(北海道教育大学)
- 6月18日(土) 総会・シンポジウム(東京工業大学)
- 9月23日(金)～25日(日) 第21回全国大会(徳島大学)

お問い合わせ先(Eメールアドレス)

- 論文投稿に関するお問い合わせ・・・編集委員会(editor@jset.gr.jp)
- 研究会の開催についてのお問い合わせ・・・研究会事務局(jet-branch@nime.ac.jp)
- ニュースレター編集に関するお問い合わせ・・・ニュースレター編集委員会
(jet-news@japet.jp)
- その他の掲載記事に関するお問い合わせ・・・学会事務局(office@jset.gr.jp)

ニュースレター編集委員会

編集長:坂元 昂, 編集委員長:堀田龍也, 委員:小柳和喜雄, 石塚丈晴
静岡大学情報学部堀田研究室 FAX: 053-412-6558 E-mail: jet-news@japet.jp

日本教育工学会ニュースレター No.135

2005年3月9日 発行人 清水 康敬
発行所 日本教育工学会事務局
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル) 2階
TEL / FAX: 03-5251-2133 E-mail: office@jset.gr.jp
http://www.jset.gr.jp/ 郵便振替 00180-0-111042